

一枚起請文

もろこし我が朝にもろもろの智者達の沙汰し
申さるる觀念の念にもあらず。又學問をして
念の心をさとりて申す念佛にもあらず。ただ往
生極樂のためには、南無阿彌陀佛と申して、
疑なく往生するぞと思ひとりて申すほかには、
別の子細候はず。但し三心四修と申すことの
候は、皆決定して南無阿彌陀佛にて往生
するぞと、思ふうちにもう候なり。此外に奥
深きことを存せば、二尊のあはれみにはづれ、
本願にもれ候うべし。念佛を信ぜん人は、たとひ
一代の法をよくよく學すとも、一文不知の愚
鈍の身になして、尼入道の無智の輩に同うし
て、智者のふるまひをせずして、ただ一向に念佛
すべし。

證のために兩手印をもつてす。

浄土宗の安心起行此一紙に至極せり。

源空が所存此外に全く別義を存せず。滅
後の邪義を防がんがために所存を記し畢。

建曆二年正月二十三日

大師在御判

右爲

写経願主

年 月 日